



Active stage at HK

～東海南中学校だより～ 令和3年 卒業記念号



# 未来の自分に大いに期待しよう～卒業式



3月9日、第51回卒業証書授与式が挙行されました。コロナ対策のため来賓の方々の出席はありませんでしたが、保護者の方々（1名限定）と在校生、職員で卒業生の門出を祝いました。

一人一人に卒業証書を授与した後、私からは式辞の最後に、「自分の個性や能力、長所も短所もそのまま受け入れ、いろいろな経験や人との出会いを通じて、自分に最も適した夢や目標を見つけてほしい。（中略）世の中やってみなければ分からないこと、続けなければできないことばかりです。

『嫌だからしない、しんどいからやめた』

は、言わば自分の可能性を断ち切っているのと同じ。自分の可能性を簡単に決めつけず、やりたいことはまずはやってみる、そして、やると決めたらしんどくても続けることが大事。未来の自分に大いに期待しよう」とエールを送りました。

送辞では、在校生代表の川口凜華さんが「先輩方を想うことや真似ることが積み重なり、響き合っ



て伝統になっていくのだと思います。私たちもそれを後輩に伝えていきます」と、伝統を受け継ぐ決意を述べました。答辞では卒業生代表の服部賢慎君（写真下）が、3年間の思い出を振り返り、感謝の気持ちを述べた後、「卒業してみんなと離れてしまうことは寂しいけれど、それと同じくらい新しい生活や出会いに期待して、今ワクワクしています」と、前向きに明るい展望を持って頑張る決意を述べました。



この日に向けて、卒業生も在校生も職員も、やれることはすべてやって臨んだ卒業式でした。卒業生の頑張りや成長を学校全体で称え、お互いの感謝の気持ちが会場いっぱいにあふれていました。卒業式は門出を祝う式であるとともに、在校生が伝統を受け継ぐ式でもあります。これまで卒業生が見せてくれた姿は、言葉や形ではなく、自然と在校生に染みこんでいると感じました。伝統はこれからも確実に受け継がれていきます。

# 15の決意 2年生立志式

15日、立志式が保護者の方々出席の下、厳粛な雰囲気の中で挙行されました。この



日の主役は2年生。立志式は昔の元服にちなんで15歳の若者が、将来への決意や目標を漢字一字に託して決意表明する行事です。西畑陽瑛君（写真左）は、「何事も全力で最後までやり通して、自分を**超**え、ライバルを**超**え、壁を**超**えて、もっともっと成長したい」と力強く決意を発表しました。他にも、「**己**」人に流されずに自分らしく行きたい。「**楽**」自分は楽しみながら他の人も楽しませるように。「**扶**」困っている人を見たらいつでも助けてあげたい。「**謝**」『ありがとう』と『ごめんなさい』を大事にしたいなど、それぞれの思いを壇上で発表しました。先週3年生からバトンを受け取った2年生。稚心を捨て大人への扉を開けようとしている姿が頼もしく感じました。決意が行動に表われていくことが大事。

いを壇上で発表しました。先週3年生からバトンを受け取った2年生。稚心を捨て大人への扉を開けようとしている姿が頼もしく感じました。決意が行動に表われていくことが大事。

# やいきたー一体感 第1回校内マラソン大会



17日、暖かな春の陽光があふれる沖野々グラウンド周辺コースで、第1回校内マラソン大会が開催されました。本校では長い間マラソン大会を開催していませんでしたが、

駅伝や体育で頑張った成果を発揮する活躍の舞台を創ることや、みんなでしんどいことに挑み、最後まで頑張った一体感を味わってほしいという思いで、コロナ禍ではありますが開催を決めました。保護者の方々や3年生にもコースに立っていただき、10時に男子がスタート（写真上）、5分後に女子がスタート。男子は3.5km、女子は2.5kmで、後半はひたすら上りという過酷なコースに挑みました。結果、男子



は山野桔平君（写真左）が優勝。2位に森脇大翔君、3位に口井淳平君。女子は小谷緋那さん（写真右）が優勝。2位に榎本百花さん、3位に裕汐梨さんが入賞し、それぞれ金銀銅のメダルを手に入れました。みんな順位にかかわらずすべてを出し切り、走り終わった後は清々しい表情で、次から次にゴールする子に温かい拍手と声援を送っていました。グラウンドはやりきった後のほのぼのとした一体感に包まれました。

